

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470800281
法人名	医療法人 社団愛敬会
事業所名	グループホーム 若の山荘
所在地 (電話番号)	伊勢市楠部町若の山2605-13 (電話) 0596-23-9090
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 3 月 11 日(火)

【情報提供票より】 (H20年2月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 4人, 非常勤 4人, 常勤換算 5.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,250 円	その他の経費(月額)	55,110 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,575 円		

(4) 利用者の概要(2 月 22 日現在)

利用者人数	8 名	男性 2 名	女性 6 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	88.3 歳	最低 80 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山崎外科内科 伊勢市立総合病院 田端歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

日当たりの良い山の上であり、見晴らしが良い。また、職員同士の仲が良く、前向きに積極的な取り組みが行なわれているホームである。隣接の老健等との交流や日常の外出行事も盛んであり地域からのボランティア訪問も多い。利用者を自分の家族として考え接しており自分が自宅で行なっている何気ない事(着替える前の服を湯たんぽで包んで温めておく等)や自分の親にしていることを利用者にも支援したい。『いきいき人生のびのび人生』を理念に日々取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>薬の置き場や、入れ物が直に見えないよう蓋を作成してある。書類の相談窓口の追加などの見直しやケアプランの見直し期間の変更など前向きに取り組まれている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の評価結果から、いくつか改善された事も確認でき前向きな取り組みが行なわれている。今回も職員全員が自己評価に参加しホーム長がまとめた。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>3ヵ月に一回定期的に開催されている。家族の参加も多くそれぞれの立場で意見が盛んであり事業所の取り組みも報告され充実した会議になっている。参加者の民生委員が早速ボランティアで事業所を訪問し園芸指導をかってでたりもしている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議の後で定期的に家族会も開催されている。面会時にも、意見や要望の確認は随時行なっているが特に要望等はない。会話の中から反映させるように取り組みはしている。</p>
	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域のボランティア団体が頻繁に訪問している。地域の行事参加も招待され積極的に出かけている。町内会の方から収穫物の差し入れも多い。</p>

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関わり、地域に根付く考えを事業所の開所時より理念としても挙げている。パンフレットにも記載がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	いつもカンファレンスの際は、利用者を自分の親だと思いつい『いきいき人生のびのび人生』の理念を再度頭に置き、支援方法を検討し日々実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のボランティア団体が頻繁に訪問している。地域の行事参加も招待され積極的に出かけている。町内会の方から収穫物の差し入れも多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価結果から、いくつか改善された事も確認でき前向きな取り組みが行なわれている。今回も職員全員が自己評価に参加しホーム長がまとめた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヵ月に一回定期的に行われている。家族の参加も多くそれぞれの立場で意見が盛んであり事業所の取り組みも報告され充実した会議になっている。参加者の民生委員が早速ボランティアで事業所を訪問し園芸指導をかってでたりもしている。	○	充実した会議であり今後も意見・情報交換を密に行なえるよう開催を2ヶ月に一回とされるよう期待したい。その中で地域との関わりを更に深め、災害時等の協力体制も確認されるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	不明な点があれば、即役所に出向き確認するなど普段から行政との連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族宛に個々の担当者が便りを書いている。その月の行事予定や参加時の写真も沿え報告している。ホーム便りは季節事に発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の後に定期的に家族会も開催されている。面会時にも、意見や要望の確認は随時行なっているが特に要望等はない。会話の中から反映させるように取り組みはしている。	○	今後も、意見を聴く姿勢で取組まれる事を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんど無く、離職率も低い。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へは順番に参加しており、他の職員への報告は毎月のミーティングで行い情報・知識を共有している。新たに資格を取得する為に周りの職員が勤務面で協力もしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地域にある事業所と交流を持ち事業所を訪問しあう等情報交換している。地域の社会福祉協議会開催の勉強会等にも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学・お話し入荘などで事業所の事を理解・納得してもらい又、馴染んでもらうよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活する中で人生の先輩であることを再認識する事が多い。料理方法・味付け・掃除の仕方・知恵等、日々支えあいながら信頼関係を構築している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望に応じ本人本位の思いを大切にしながらもメリハリのある生活を考え自分の親だと思い支援している。表情の変化や行動を見逃さないように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的に行なわれるカンファレンスで話し合わせ、担当者以外の意見も聴きながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月カンファレンスで評価し定期的な見直しは3ヶ月ごとに行なっている。状態の変化がある場合はその都度変更している。	○	家族の意見をより引き出すようカンファレンスへの参加も検討を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	旅行の外泊支援や希望の美容院への付き添いをはじめ希望に応じ柔軟に対応している。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	理事長が医師でもあり事業所へ頻繁に訪問している。その中から体調の変化や気づきがあれば相談もしている。医師からも気遣いがあり対応してもらえる。また、昔からのかかりつけ医の受診支援も行なっており看護職員が対応し支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の希望もあり終末期の対応経験もある。前回の運営推進会議でも意見を求め今後の対応を検討している。事業所としての方針を職員とも話し合い検討している最中である。	○	職員としっかり話し合う機会を持ち検討し事業所としての方針を決められる事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導の声のかけ方、失禁時の交換の声かけ等自尊心への配慮は特に注意して対応している。他者に対してもプライバシーの配慮を意識した支援を心がけている。	○	面会者に対してのプライバシーとして、記録用紙の工夫を期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞き入れ個々に対応はしているが、職員の勤務体制の関係で職員側の都合を優先して決めている面もある。	○	起床時間・食事時間など日によっては気分が向かない日もあると思われる。生活のメリハリも大切であるが、事業所内で対応方法などを再度検討されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	得意な利用者と一緒に調理をし味付けをしたり準備をし、職員も一緒に食事を取り会話を交えながら要介護者にはさりげなく介助をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回月・水・土曜に決めている。毎回は困難であるができるだけ夜間、就寝前にタイミングを合わせた入浴支援をしたいと考えている。	○	衛生面の配慮も検討され入浴の支援体制を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	過去の経験を活かし、農作物・園芸・梅干づくりなど利用者から指導を受け行なっている。絵を描いたりオルガンを弾いたり、それぞれの気晴らしを楽しんでいる。居室の掃除はできるだけ本人にしてもらうような支援方法を導入している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	習慣的に朝は散歩をしている。買い物に出かけたり外食に出かけたりと希望に応じた支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーが設置しており、出かけようとする利用者には付いて出るようにして静止させる支援ではない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て避難訓練を行なっている。防災以外の想定はしていなかった。	○	夜間の災害を想定した話し合いと備蓄に関しても検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量は個人記録に記載している。夜間も水分を自由な時に取れるよう居室においている。老健の管理栄養士に栄養バランスを確認してもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはソファや畳も設置され広々としている。また、天井も明かりが取り込まれるような工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個々の馴染みあるものが持ち込まれている。		